

H13

問16 ICP (誘導結合プラズマ) 発光分光分析法の分析操作に関する以下の記述の中で、誤っているものを一つ選べ。

- 1 調製した溶液試料をそのまま噴霧する場合は、原則として、塩酸又は硝酸酸性とする。
- 2 塩類濃度の高い試料で検量線法が適用できない場合、標準添加法を用いるとよい。
- 3 標準添加法を用いる場合は、空試験値の補正を必要としない。
- 4 硝酸と過塩素酸、又は硝酸と硫酸を用いて試料を分解する場合、分解した後、白煙を十分に発生させて大部分の過塩素酸や硫酸を除去しておく。
- 5 前処理法の選択を行う場合、試料に一定量の分析対象成分を添加して回収試験を行い判断するとよい。

H14

問15 ICP (誘導結合プラズマ) 発光分析に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選べ。

- 1 分光器を真空にするか、窒素又はアルゴンなどでパージしなければ、真空紫外領域の分析線は使用出来ない。
- 2 分析線は、共存元素による分光干渉を受ける場合があるが、プラズマガスによる分光干渉は受けない。
- 3 元素間干渉補正係数は、分析線強度に及ぼす影響を共存元素の濃度の関数として求める。
- 4 強度比法において内標準元素は、通常、分析線に分光干渉を起こさず、共存元素の分光干渉を受けないことが必要である。
- 5 検量線法では、試料溶液と検量線作成用溶液との組成が類似していることが望ましい。